

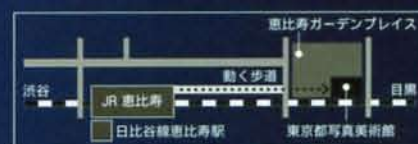
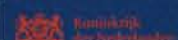


世界報道 写真展 2007

— 地球上でおきている、この瞬間を忘れないように —
6月16日[土]—8月5日[日] 東京都写真美術館 地下1階映像展示室

開館時間=10:00~18:00(木・金は20:00まで) 入館は開館時間の30分前まで
休館日=毎週月曜日(但し7月16日は開館、翌17日休館、7月23日臨時開館、翌24日も開館)
観覧料=大人700円、大学生600円、中学生・65歳以上400円、小学生以下無料
主催=朝日新聞社、世界報道写真財団 共催=東京都写真美術館 後援=オランダ王国大使館、社団法人日本写真協会、社団法人日本写真家協会
協賛=キヤノン株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、ティ・エヌ・ティ・エクスプレス株式会社 協力=グーグル株式会社
お問い合わせ=東京都写真美術館 TEL.03-3280-0099

記念講演会 デーヴィッド・グッテンフェルダー氏(日常生活の部・組写真1位)
7月23日(月) 14時、1階ホール(展覧会の半券で入場可)



東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
JR恵比寿駅東口より徒歩7分 <http://www.syabi.com/>

WORLD PRESS PHOTO 20

写真は現実には起きていることしか写りません。でも一瞬を閉じこめた画面は、時としてその前に起きていたこと、その後に起きたであろうこと、その背景に隠されていることなども見せてくれる力をもっています。プロの写真家はそんな写真をめざします。世界中の報道写真家が憧れ目標とするのが、オランダの世界報道写真財団が毎年主催する報道写真のコンテスト「世界報道写真コンテスト」です。50回目の今年、応募者は124カ国4460人。その入賞作品で構成されたのが世界報道写真展です。ここには地球上で起きたあらゆる事実が並んでいます。写真家たちが切り取った“一瞬”に込めたメッセージは何でしょう? 写真の裏にあるものをたくさん見つけてください。

《スポットニュースの部:単写真1位》
アケトンデ・アケレイエ(ナイジェリア)



石油パイプライン爆発事故のあと、
顔のすすを洗い落とす男性
-12月26日、ナイジェリア、ラゴス-
(ロイター通信)

《一般ニュースの部:組写真2位》
ピーター・ヴァン・アクトメル(アメリカ)



夜襲
-1月13日、イラク-
(ボラリス・イメージズ)

《ニュースの中の人びとの部:単写真1位》
オデッド・パルティ(イスラエル)



イスラエルの警備隊に抵抗する人権地の女性
-2月11日、ヨルダン川西岸アモナー-
(AP通信)

《ニュースの中の人びとの部:組写真2位》
アルチュエロ・ロドリゲス(スペイン)



テネリフェ島のテヒタビーチで
密入国者を助ける観光客
-7月30日/8月3日、スペイン、カナリア諸島-
(AP通信)

《スポーツ・アクションの部:組写真1位》
ペーター・スホルス(オランダ)



ワールドカップ決勝でのジダンの退場
-7月9日、ベルリン-
(ダブラッド・デ・リンブルガー/GPD/ロイター通信)

《日常生活の部:組写真1位》
デーヴィッド・グッテンフェルダー(アメリカ)



孤独な男たち
-東京-
(AP通信)

《アート&エンタテインメントの部:単写真1位》
キャロライン・コール(アメリカ)



ショーの準備をするデビー・デイヴィス
-ニュー・オリンズ-
(ロサンゼルス・タイムズ紙)

《自然の部:単写真1位》
マイケル・ニコルス(アメリカ)



サーバルキャット
-チャド、ザンビア国立公園-
(ナショナル・ジオグラフィック誌)

《ニュースの中の人びとの部:組写真1位》
Q.サカマキ(日本)



バス襲撃事件の犠牲者を悼む
-6月、スリランカ-
(リダックス・ピクチャーズ/ニューズウィーク誌)